

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500676
法人名	有限会社 SKR
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県伊予郡砥部町高尾田 1 0 0 8 - 6
自己評価作成日	平成28年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の方と職員が接する時は「ゆっくり やさしく おだやかに」をモットーにしています。食事は食材を毎日近くのスーパーに買い物に行き職員の手づくりで新鮮な旬の料理を提供しています。利用者の方一人ひとりのペースを大切に、食事の提供時間は利用者の方それぞれに合わせ、重度化して摂取に時間がかかる方についても途中で温めなおし1時間以上かけ介助しています。その時々々の状況を見極めて柔軟な対応ができるように心がけています。帰宅願望のある方で外出されようとする方に対しては、ごまかさず、うそをつかずにご本人が納得いくまで職員が付き添うように心がけています。職員の離職が少なく利用者の方とのなじみの関係が築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●運営推進会議「朋志会」に、家族の参加を増やせるよう、「平日の午後から」と「日曜日の午前中から」を交互に開催している。7月の会議時には、事業所の脱水予防の取り組みを報告して、参加者に脱水予防ゼリーの試食をもらった。年度末には、一年間の取り組みの資料を作って報告を行っている。
●秋祭りには利用者が、お菓子を子ども達に配ることが恒例となっている。事業所前には、他法人の介護事業所があり、餅つき、夏祭り、クリスマス等に誘ってもらい参加している。
●クリスマス会では、利用者がサンタ役になり、節分では利用者が鬼役になり楽しんでいる。夏祭りには、浴衣、お祭りには半被を準備して利用者が雰囲気も楽しめるよう支援している。調査訪問時には、食材の買い出しと一緒に出かけた利用者、職員が「今日は助かった。ありがとう」とお礼を伝えていた。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月16日

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

済川 浩志

評価完了日

2016年 8月 31日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「すべてに感謝。ありがとう。」を運営理念にしている。すべての職員で理念を共有し、職員の採用時には意義を説明し、日々のケアで実践している。	
			(外部評価) 理念は玄関に掲示している。カンファレンス時には、職員全員で理念の確認を行っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭への参加や日々の買い物、散歩時の挨拶などを通して地域との交流は行なっている。また、隣接する高尾田あったか広場様とイベントや運営推進会議を通して交流がある。	
			(外部評価) 地域の神社の夏祭りや初詣に出かけている。秋祭りには利用者が、お菓子を子ども達に配ることが恒例となっている。事業所前には、他法人の介護事業所があり、餅つき、夏祭り、クリスマス等に誘ってもらい参加している。散歩中に近所の方が声をかけてくれたり、野菜のおすそ分け等がある。地域の方が絵手紙を教えに来てくれることがあるが、さらに、地元ボランティアとのつながりを増やす等して、地域とのつながりを拡げていってほしい。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で認知症の利用者の方に対するの脱水症状防止に関する取組についての説明をした。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に、地域からは民生委員、町会議員、地域のボランティアの方等、隣接する小規模多機能ホームの職員の方、利用者家族に参加していただき日々の活動内容やサービス状況、評価への取り組み等を具体的に報告している。また、その中で意見をいただき実践に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議「朋志会」に、家族の参加を増やせるよう、「平日の午後から」と「日曜日の午前中から」を交互に開催している。7月の会議時には、事業所の脱水予防の取り組みを報告して、参加者に脱水予防ゼリーの試食をしてもらった。年度末には、一年間の取り組みの資料を作って報告を行っている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には町の担当者の方にほぼ毎回出席していただき、時に意見をいただいている。また、町主催の介護支援専門員連絡会への出席している。月1回の介護相談員の訪問があり、利用者の方から直接話を聞いていただき、相談内容を口頭と文書で施設側に伝えていただいている。</p> <p>(外部評価) 月1回訪問がある介護相談員からの情報をもとに、利用者の要望に沿い、衣料品の買い物に出かけられるよう支援した事例がある。今年度、砥部町主催で町内の病院や介護施設を対象にした「防火安全対策研修会」が開催され、職員が参加した。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についての正しい理解が出来るように、ミーティング時に話し合っている。言葉の拘束についても気をつけている。玄関は施錠せず外に行きたい方は職員同伴で自由に外出できるようにしているが利用者の方の重度化が進み外出を希望される方は少ない。</p> <p>(外部評価) ミーティング時に身体拘束について勉強をしている。玄関には鍵をかけず、利用者が出かける時には、職員も一緒に出て見守り支援を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての正しい理解が出来るように月1回のミーティング時にも機会があれば話し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ必要な方はいないが地域福祉権利擁護事業や砥部町主催の成年後見人制度についての研修に毎年参加している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 前回外部評価時から新規契約者はいないが、利用を予定している方については、ホームの見学や自宅への訪問をし、話し合いの機会を多く持ち、質問内容についても丁寧に説明していた。介護保険改定の際は運営推進会議で説明し出席できない方には文書で通知している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には面会時や介護計画説明時に日常生活の中で要望や不安な事などが無いかが聞いている。その内容については職員ミーティングの中で話し合い実践している。また、近況を報告するために写真とコメントを入れたホーム通信を各利用者ごとに作成し請求書送付時に同封している。	
			(外部評価) 家族来訪時には、掲示している写真を見てもらいながら、暮らしぶりについて具体的に報告を行っている。介護拒否のある利用者については、現状を写真に撮って見てもらいながら相談をしている。利用者のひ孫さんと、その友人3~4人が来て、日舞や歌を披露してくれることがある。9月の敬老会時には、3組の家族参加の予定である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 申送り時やミーティング時、また随時意見を聞く場を設けている。代表と管理者、職員間で個人面談も行い運営や日常業務に関して意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) 職員は、まず代表者や管理者にアイデアや提案をして、職員全員で検討して取り組みをすすめている。職員の介護資格取得に向けては、資格取得した職員から教材提供や勉強への協力がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の性格や勤務状況を把握するように努めている。また個人面談を行い具体的な意見を聞きやりがいのある就業環境の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修会の参加を呼びかけ、参加した職員から内容を伝達するようにしている、また、2カ月に1回ミーティングの中でテーマを決め勉強会を実施している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者が近隣の施設、病院等に挨拶をしてみわり、ネットワーク作りに努めている。また、職員が隣接する小規模多機能事業所の運営推進会議に出席し意見交換している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 前回外部評価時から新規契約者はいないが、入居前に家族、本人、関係者から暮らしの情報シートを利用して生活歴や要望を聞き把握できるように話し合いを持ち安心して利用できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>前回外部評価時から新規契約者はいないが、入居前に家族の要望を聞き事業所としての対応などを詳しく説明している。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>前回外部評価時から新規契約者はいないが、本人と家族が必要としているものや要望を理解し、事業所として何が出来るかを話し合っている。また、日々の申送りやミーティングの中で話し合っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体的な能力、認知機能能力が低下していく中で、関係構築は最近困難になっているが、本人の思いや不安、また、好きなこと、食べ物、得意なことなど入居当初から把握していること、食事の好みなどはキッチンに掲示している。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日頃から家族の方と話す機会を多く作り、本人からの希望や、訴えなどを家族に相談しながら、協力し合える関係作りに努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>携帯電話を持たれている利用者の方はご家族に必要時には随時連絡を取られている。認知症の重度化が進みなじみの方との関係を求められる方が少なくなっている。必要時には連絡を取るようになっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>友人が好物を持って訪ねて来てくれて、他利用者にもおすそ分けしてくれる。利用者が家族に連絡したい時には、職員が本人に用件を聞き、連絡するようなケースがある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の会話の中から利用者同士の関係を把握し、利用者同士の雰囲気を感じるようにしている。会話が弾む利用者の方同士を同じテーブルに座っていただくようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 前回外部評価時から退居者はいないが、サービス利用が終了しても、病院の転院などの相談が家族からあれば対応している。退居後に入院されている病院にもお見舞いに行っている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の方と対話する機会をできるだけ多く作り、その中で食事の好みや、やりたいこと、行ってみたい所等の本人の希望や関心を聞きとり内容をまとめ掲示しているが、利用者の方の重度化が進み意思表示が難しくなっている方はご家族からの意向を聞くようにしている。 (外部評価) 管理者は、職員に声のトーンを落として、ゆっくりとした口調で、利用者から思いをうかがうように話している。意思表示が難しい利用者については、事業所独自の「暮らしの情報」シートに、入居時に聞き取った情報と現在の利用者の表情等、又、家族の意見をまとめて思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約のときや、面会時に、家族から生活歴や生活環境を聞き把握するように努めている。本人からも意思表示ができるうちに日常生活の中で話を聞くようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活のリズムを記録の中で把握するとともに、出来ることは職員が見守りご本人にやっていただくようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 職員が日常生活の中から、本人の要望をくみとり、面会時には家族と話し合うようにしている。その内容を職員間でミーティング時に意見を出し合い、介護計画を作成して情報共有している。介護計画は3カ月に1回モニタリングを行い、6カ月ごとに見直している。</p> <p>(外部評価) フェースシート・簡易アセスメントで利用者・家族の思いや職員の意見をまとめ、それをもとにして管理者やケアマネジャーがケアプランを立案している。プランは、日々の介護記録に綴じており、職員で共有して支援に取り組んでいる。毎日、○・ で実施状況をチェックして、気付きは特記事項の欄に記録しており、毎月のミーティング時に話し合い、3ヶ月ごとの見直しにつなげている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に記録をし、必要事項は管理日誌や申し送りノートに記入し、毎出勤時に確認するようにしている。その中で必要であれば毎月のミーティング時にカンファレンスを行い情報を共有し見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人の希望で外出や買い物に行きたい方などにはその都度柔軟な対応ができるように心がけている。職員が問いかけても利用者の方からの希望が以前より少なくなっている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を活用したり、民生委員、町会議員、地域のボランティアの方や地域の職員等と情報交換している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 主治医は利用者の方、ご家族のご希望の医療機関で受診していただいている。9名中8名の方は2週に1回の主治医の往診がある。緊急時には24時間対応で往診していただいている。必要に応じて職員が同伴して通院もしている。歯科は週に1回往診がある。主治医の変更を希望される方にはその都度対応している。</p> <p>(外部評価) 町内の病院受診については、職員が同行し支援している。「食事が減った」「発熱が考えられる」等、異変が予測される場合は、診療時間内に診てもらえるよう、主治医に連絡し対応している。訪問歯科は、口腔ケアを行ってくれる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護師が1週間に3日程度勤務し、日常の健康管理を行っている。不在時は、いつでも連絡がとれ相談できるようにしている。また、緊急時や必要時には、すぐに対応できる体制をとっている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入退院時は主治医、関係医療機関、家族と話し合い、治療方針などの情報交換や相談をしてできるだけ早期退院できるよう支援している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 前回外部評価時から新規契約者はいないが、契約時に重度化したときに事業所としてどこまでできるかを説明している。常時医療が必要な場合は医療機関に入院されるケースがほとんどだが、ターミナルケアについても主治医、家族と十分な話し合いをもち、チームケアで取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 入居説明時には、事業所で出来る看取り支援について説明をしている。家族から「イメージができない」と意見もあり、今後はさらに、重度化した場合には、家族に「本人の状況に合わせて具体的な支援の説明や対応が必要」と考えている。夜勤のみ行う職員からは「看取りに不安がある」と意見がある。</p>	<p>支援についての職員の不安軽減や家族の理解、協力に向けての話し合いや勉強会の機会を作ってはどうか。チームで利用者や家族の希望を支援していけるよう、体制作りが期待される。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変が予想される利用者の方に対しては日中に主治医と連携して迅速に対応できるように準備するようにしている。また、必要時やミーティング時に対応の訓練をしている。緊急時のマニュアルを作成し職員全体に周知している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は毎回、夜間想定で夜勤者一人で利用者の方全員を避難誘導する訓練を実施している。職員は全員参加している。消防の担当の方に参加いただき、意見交換している。また、来年度には火災受信機と自動通報装置の連動を予定している。 (外部評価) 年2回、夜間想定での避難訓練を行っている。夜勤に入る職員が利用者全員を避難誘導する訓練を行い、消防、役場職員からアドバイス等を聞いた。地震時には、道を挟んだ正面にある介護施設に避難協力を得ることになっている。又、地域の方とはお互いに協力し合うことを申し合わせている。備蓄は、水・食料を3日分程度と、コンロを準備している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入浴、排泄などのプライバシーを守るための配慮を、ミーティングの中で話し合い、利用者一人ひとりに合った声掛けをするように努めている。職務上知り得た個人情報外部に漏らさないように、入社時に職員全員から誓約書に署名捺印してもらっている。 (外部評価) クリスマス会では、利用者がサンタ役になり、節分では利用者が鬼役になり楽しんでいる。夏祭りには、浴衣、お祭りには半被を準備して利用者が雰囲気も楽しめるよう支援している。調査訪問時には、食材の買い出しに一緒に出かけた利用者に、職員が「今日は助かった。ありがとう」とお礼を伝えていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の方本人の思いや、希望を聞き取りできるだけ自己決定できるようにしているが、重度化が進み表現できる方が少なくなっている。表現しにくい方には選択肢を設けるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者本人のペースで日常生活できるように努めているが、重度化が進み日常生活の中での希望の聞き取りが難しくなっている。希望がある方に対しては外出、買物、入浴等希望にそえるように支援している。希望を表現しにくい方にはこれまでの生活歴やホームでの暮らしぶりから希望をくみとるようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の方9名中7名は衣類の選択が難しいため職員が以前から好まれていたものを中心に用意している。理美容については町内の理容院に出張理容をお願いしている。化粧や、毛染めなどおしゃれできるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常生活の中でどんな物が食べたいかお聞きして、利用者の情報をお聞きするようにしているが表現できる方が少なくこれまでの生活歴を参考にすることができるかぎり要望にそえるようにしている。料理の下ごしらえ、テーブル拭き、お茶入れ、下膳等をできる限り一緒に行なうようにしているができる方が少なくなっている。 (外部評価) 「カレー、丼、肉料理、麺類、卵、味付けご飯」を軸にして、ある食材と利用者の希望を合わせてメニューを決めている。利用者は、生活ペースに合わせた時間で食事をしている。職員は、食材や味付等を話題にして利用者と一緒に同じものを食べていた。下膳やおやつ後の食器洗いを利用者が行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量を毎食後記入している。水分摂取量は随時記録している。食事は一汁三品を目安に調理している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、口腔ケアの流れが自然に出来るように声掛けをし、能力に応じて介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄を記録しパターンを分析し、ミーティング、申し送りの中で話し合い、時間を決めトイレ誘導するようにしている。重度化が進み排泄介助の頻度が増えているが、なるべくトイレで排泄できるように努めている。	
			(外部評価) 尿意を表さないような利用者には、排泄チェック表を付け、確認しながら時間ごとに誘導し支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて繊維の多い食品を取り入れたり、歩行などの運動や腹部マッサージをしたりしている。また、水分補給にも注意している。それでも改善できない場合は主治医に相談し緩下剤を服用していただいている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は午後から実施している。ほとんどの方の入浴介助量が増えているため時間を要するようになっている。入浴を拒否される方には、時間をおいて声掛けしたり、別の職員が声掛けをしたり工夫しながら支援している。回数は週3回を目安にしている。	
			(外部評価) 週3回、午後から入浴を支援している。入浴支援については、医師の確認を取り、指示を受けて支援しており、利用者の状態によって、半身浴、シャワーと足浴で支援するケースもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は本人の希望で体操、下肢ストレッチ、室内歩行、散歩等で活動的に動けるように支援している。できる方が以前より少なくなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ファイルを作り職員全体が利用者の薬の効能、副作用について把握できるよう努めている。処方が変われば管理日誌に記入し職員全員で情報を共有している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の出来ること、興味があること、好きなことを把握し情報を掲示していつでも確認できるようにしている。また、集団の中で料理の下ごしらえ等の役割を活かせるよう声掛けをしているが、出来る方は少なくなっている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方の重度化が進み外出が困難になっている外出時には利用者一人に職員一人が同行しないとできなくなっている。日常生活の中で排泄、食事、入浴介助の時間がほとんどを占めるようになっており、外出の機会は激減している。	
			(外部評価) 散歩の希望があれば、その日のうちに出かけられるよう支援している。利用者の状態のこともあり、皆での外出は難しいが、職員が、利用者をピストン移送して、地域の祭りや花見・外食等に出かけられるように支援している。個々に、好きなおやつを食べに出かけられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 日々の食材の買い物はほぼ毎日利用者の方と行っている。日用品などの買物の希望があればその都度一緒に出かけている。希望者は9名中1名おられる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要時はいつでも、ホームの電話を使用して電話をかけたり、手紙や年賀状を出したり、できるように支援しているが、声掛けしても希望される方はおられない。利用者の方1名は携帯電話を持たれご家族と連絡を取られている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングにはソファを置きくつろげるようにしている。気候の良い時期には、天気の良い日にベランダでベンチに座って日光浴できるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間では、皆で日課のラジオ体操を行ったり、歌を歌う等している。壁には利用者と職員で作成した壁掛けを飾っていた。掃き出し窓の近くにソファを配置しており、調査訪問時には、利用者同士で談笑していた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ソファや食卓テーブル、居室等、利用者の方がそれぞれ過ごしやすいところで過ごしていただいている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族の写真、利用者ご本人の昔の写真などなじみの物を持ってこられている。また、面会時に撮影した写真などを居室内にご本人が見えるように掲示している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>自室が分からなくなる利用者には、家族の了解を得て、居室入口に本人の顔写真を掲示している。室内には、利用者が好きな猫の写真、家族の写真、花等を飾っている。居室を自分で掃除する方や自宅で使用していた化粧ケースを持ち込み、化粧する方もある。立ち上がり時に使用するためのベッド柵には、隙間に手や頭が入らないようカバーを付けていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>その人にとって何がわかりにくいかを探し出し、職員間で話し合い改善点があればその都度対応している。</p>	